（別紙５）

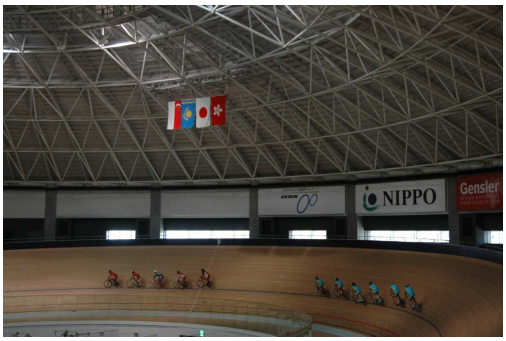
【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号　　25-1-018
補 助 事 業 名　　平成２５年度　自転車競技の普及促進　補助事業
補助事業者名　　一般財団法人　日本サイクルスポーツセンター

１　補助事業の概要

（１）事業の目的

アジア地域におけるトレーニングセンターとして、アジア各国の将来有望なトラック競技者及びそのコーチの中から希望者を募り、国内外においてトレーニングキャンプを実施することにより、自転車競技の普及振興と競技力の向上を図る。



第1回国内トレーニングキャンプ
会場：伊豆ベロドローム

（２）実施内容

アジアサイクリングセンターの運営

① 内トレーニングキャンプ

第1回トレーニングキャンプ；(http://www.csc.or.jp/ccc/index.html)

・期　間：平成25年5月26日から6月8日（14日間）

・参加人数：3カ国、選手10名・コーチ6名　計16名

内訳(香港チャイナ：選手2名、シンガポール：選手2名、カザフスタン：選手6名、コーチ6名)

台上走行テスト

測定結果等の解説

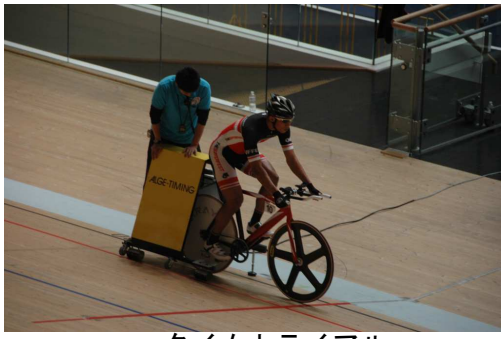
（別紙５）

ストレッチ

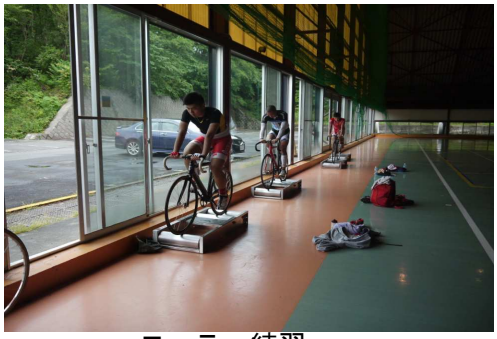
ウォーミングアップ

ペダリング、フォームの確認

ウエイトトレーニング



タイムトライアル



ローラー練習

・練習内容：今回、２回目の参加選手やユースからエリートまで幅広い選手構成であったが、将来的なビジョンに基づき中長期育成計画の下で、トレーニングプログラムを展開した。

　また、エリートには将来を見据え、コーチング理論を理解してもらい、競技指導者に向けての育成も併せて行った。

（別紙５）

第2回トレーニングキャンプ；(http://www.csc.or.jp/ccc/index.html#tab-2)

・期　間：平成25年11月8日から11月21日（14日間）

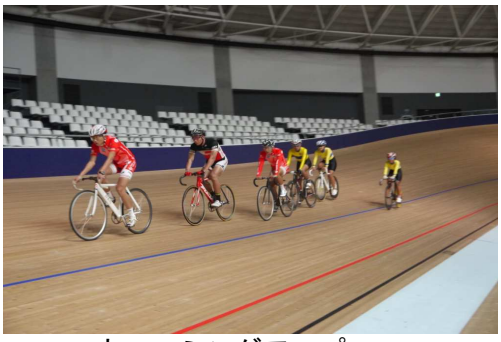
・参加人数：3カ国、選手6名・コーチ0名　計6名

内訳(香港チャイナ：選手2名、シンガポール：選手1名、タイ王国：選手3名)

オープニング

台上走行

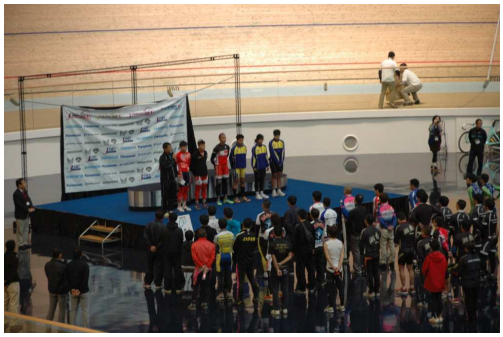
基本スケジュールの説明



ウォーミングアップ

鍼しん術資格を持つコーチの診察

伊豆総合高等学校生徒との交流



実業団大会にオープン参加

伊豆ベロドロームにて集合写真

（別紙５）

・練習内容：年齢・レベルを考慮し、長期的な育成ビジョンに立脚したプログラムに沿ってトレーニングを実施した。

参加経験のある選手については、前回からのフィジカル・スキルの向上度合いに応じてアセスメント及びステップアップのためのトレーニングを行った。

初参加の選手については、基礎的なプログラムにより技術及び知識の習得を促す指導を実施した。

エリート選手については、次世代を担う指導者となりうる人材であることから、コーチとしての見識を習得しながら自身のスキルアップを望めるような内容で指導した。

②海外トレーニングキャンプ

南・東南アジアの競技発展途上国を中心とするアジア全域におけるトラック競技の普及を目的にThai　Cycling　Associationの協力の下、ＣＣＣ修善寺から指導員２名と事務局１名を派遣し、タイ王国・スパンブリで海外トレーニングキャンプを開催した。また、引き続き同会場に於いてＡＣＣトラックアジアカップ２０１３タイラウンドに出場する機会を得、トレーニング効果を検証する。

トレーニングキャンプ期間：平成２５年９月２４日から１０月３日（１０日間）

（ＡＣＣトラックアジアカップ２０１３タイラウンド開催期間
平成２５年１０月　４日から１０月　６日（３日間））

開催地：タイ王国・スパンブリ　競技場

派遣スタッフ：３名（指導員２名、事務局１名）

参加人数：４カ国２７名（選手２１名、コーチ６名）

マレーシア：選手６名・コーチ２名、シンガポール：選手２名

香港チャイナ：選手３名、タイ王国：選手１０名、コーチ４名

オープニング

ストレッチ体操

（別紙５）

ウォーミングアップ

ローラー台を使用した指導

ディスカッション

集合写真　スパンブリ自転車競技場

ACC Track Asia Cap 2013　視察

キャンプ参加者の表彰写真

実施内容：参加選手層は、ユース・ジュニア世代が中心であり、基本スケジュールに沿って、基礎的なプログラムに徹したトレーニングを実施した。

キャンプ後半、ＡＣＣトラックアジアカップに出場する選手において

（別紙５）

は、競技種目ごとにトレーニングを行った。

また、コーチのためのミーティングを開き、スポーツ科学の理論に基づいたトレーニング計画立案法、効率的にパフォーマンスを引き出せる乗車フォームやペダリング、自転車ポジショニング等をテーマにディスカッションを行うとともに、トレーニングを取り仕切るチーフコーチ役のコーチングテクニックを実践し、学ぶ機会を提供した。

そのほか、アジア地域の有望選手発掘並びにＣＣＣ修善寺利活用ＰＲを併せて実施した。

２　予想される事業実施効果

アジアサイクリングセンターの運営

①　国内トレーニングキャンプ

国内トレーニングキャンプの参加者は、主にジュニア・ユース世代であることから、将来性を考慮した基礎的なトレーニングメニューを指導・訓練を実施することにより、アジア地域における選手の競技力の向上並びにトラック競技の普及が図られ、世界レベルで活躍できる選手の輩出が期待できる。

②　海外トレーニングキャンプ

経済的な事情で国内キャンプには参加できない南・東南アジア地域の自転車競技者及びコーチには必要不可欠なトレーニングキャンプであり、本活動を継続的に実施することによって、より幅広く自転車競技トラック種目の普及と振興を図ることができ、ひいては世界レベルで活躍できる選手の育成にも繋がっていくと期待されている。

３　本事業に係る成果物

（１）補助事業により作成したもの

該当なし

（２）（１）以外で当事業において作成したもの

該当なし

４　事業内容についての問い合わせ先

団　体　名：　一般財団法人　日本サイクルスポーツセンター

（フリガナ）ｲｯﾊﾟﾝｻﾞｲﾀﾞﾝﾎｳｼﾞﾝ　ﾆｯﾎﾟﾝ　ｻｲｸﾙ　ｽﾎﾟｰﾂ　ｾﾝﾀｰ

住　　所：　〒141-0021

東京都品川区上大崎３丁目３番１号

（別紙５）

代　表　者：　会長　平　柳　　豊（ｶｲﾁｮｳ　ﾋﾗﾔﾅｷﾞ　ﾕﾀｶ）
担 当 部 署：　総務部財務課（ｿｳﾑﾌﾞ　ｻﾞｲﾑｶ）
担 当 者 名：　財務課長　山口正美（ｻﾞｲﾑｶﾁｮｳ　ﾔﾏｸﾞﾁﾏｻﾐ）
電 話 番 号：　0558-79-0006
Ｆ　Ａ　Ｘ：　0558-79-0908
Ｅ－ｍａｉｌ：　csczaimu@csc.or.jp
Ｕ　Ｒ　Ｌ：　http://www.csc.or.jp